

コープデリグループ  
サステナビリティレポート  
—  
2024



## CONTENTS

# コープデリグループ

エスディー・ジーズ

## SDGsの取り組み

- 04 トップメッセージ
- 05 コープデリグループ理念 コープデリグループ ビジョン2035
- 06 特集《特別座談会》

### 「ともに」の力で、笑顔の明日を 「ビジョン2035」策定、協同組合の皆さまとの特別座談会

全国農業協同組合連合会 代表理事理事長 桑田 義文さん  
北海道漁業協同組合連合会 代表理事専務 安田 昌樹さん

- 12 SDGsとコープデリグループ

### SDGs重点課題と2023年度の取り組み

- 14 **01 持続可能な生産と消費のために**  
持続可能な生産と消費のために、  
商品とくらしのあり方を見直していきます
- 22 **02 安心して暮らせる地域づくりのために**  
誰もが安心してくらし続けられる  
地域社会づくりに貢献します  
コープみらい／いばらきコープ／とちぎコープ  
コープぐんま／コープながの／コープデリにいがた
- 30 **03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して**  
1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます
- 32 **04 100年後の地球のために**  
再生可能エネルギーの利用・普及を進め、  
地球温暖化対策を進めます
- 36 **05 世界中の人々の平和で健康な生活のために**  
世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます

- 38 サステナビリティデータ
- 43 ガバナンス・内部統制
- 44 フードチェーンにおけるSDGs活動MAP
- 46 コープデリグループのサステナビリティ活動のあゆみ
- 48 コープ(生協)ってなんだらう
- 49 コープデリグループについて・コープデリ連合会の概況
- 50 コープデリグループの事業と会員生協の活動

コープデリグループは半世紀以上にわたり人と自然が共生する社会と平和な未来づくりに取り組んでまいりました。今後も皆さまとともに豊かな未来をはぐくむためにコープデリグループは、新たな試みに挑戦していきます。

### 編集方針

「コープデリグループ／サステナビリティレポート2024」は、SDGs(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理念・ビジョンと関連付けながら主な取り組みを紹介し、「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

【対象者】  
組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

【対象期間】  
特に断りのない限り2023年度(2023年3月21日～2024年3月20日)です。

【対象範囲】  
コープデリグループ共通の取り組み、会員生協独自の取り組み、コープデリ連合会としての取り組みを対象としています。

【報告数値】  
数値は端数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

【発行年月】  
2024年8月

コープデリグループ  
サステナビリティサイト >



サステナビリティサイト  
動画ギャラリー >



コープデリグループの  
サステナビリティ  
Instagram >



# 未来 つなごう



# トップメッセージ



「未来へつなごう」をスローガンに、  
助け合いの組織として、  
地域共生社会づくりに参画し続けます。

代表理事 理事長

熊崎 伸

コープデリグループの事業と活動への皆さまのご協力ご支援に、心より御礼申し上げます。

2024年6月に開催された会員生協の通常総代会・コープデリ連合会通常総会にて、コープデリグループの10年後のありたい姿をあらわす「ビジョン2035」が承認されました。

またコープデリグループでは、持続可能な社会の実現に貢献するため「SDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」を定め、「未来へつなごう」をスローガンに取り組みを進めています。コープデリグループの理念・ビジョンとSDGsの目指す方向は同じです。SDGsの達成に貢献し、グループ536万人の組合員と2万5,000人の職員がともに掲げるビジョン2035の実現を目指します。

2024年1月に発生した能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。コープデリグループでは緊急支援募金に取り組み、組合員から5億円を超える善意をお寄せいただきました。全国の生協からの募金と合わせ、被災された方々への支援に役立てられています。また、被災地の生協であるコープいしかわの配達事業を支えるため職員を1年間派遣するとともに、被災された方々を応援するメッセージをお届け

けるなど、被災地域の復興をさまざまな形で支援しています。これからも助け合いの組織として、被災された方々に寄り添った支援を続けてまいります。

組合員のくらしと地域社会に貢献し続けるためには、職員がイキイキと働き続けられる職場づくりが不可欠です。コープデリ連合会は、職員一人ひとりの多様性が尊重され、安心して働き続けられる職場づくりを進めるため、「健康経営」を推進することを宣言。2024年3月に「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）」に認定されました。これまでの取り組みに加え、健康でやりがいを持てる職場づくりにさらに取り組むことで、職員の成長と組織の成長につなげます。

世界的な気候変動は、食料の調達に大きな影響を与えています。コープデリ連合会は、これまで積み重ねてきた会員生協との連帯を基盤に、会員生協の事業・活動を支え、より強靱なコープデリグループの構築を目指します。生産者・取引先の皆さまのご協力のもと安定調達に努め、事業と活動の総合力で組合員のくらしに貢献します。行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップを大切に、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を目指して、これからも歩みを進めてまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ 暮らしと未来

## コープデリグループ ビジョン2035

# 食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、<sup>あした</sup>笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で  
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

食の安全と安心を第一に、生産から消費のつながりをより豊かにし  
おいしさ、健やかさ、楽しさ、便利さなど  
それぞれの **食べるしあわせ** を叶えます。

さまざまなライフスタイル・ライフステージに寄り添った  
商品やサービス・多彩な活動で、**自分らしい暮らし** を実現します。

人を大切に多様性を認め合い、学びと対話を重ねながら  
**願いをかたちにする組織** を目指します。

地域の課題と、環境や平和などの地球規模の課題に向き合い  
さまざまな組織・団体とつながり  
**次世代に笑顔が続く社会** の一翼を担う存在になります。

※ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿を表したものです。

## 「ビジョン2035」策定、協同組合の皆さまとの特別座談会

コープデリグループは、2035年に向かって新しく「ビジョン2035」を策定しました。

生活協同組合であるコープデリ連合会、農畜産業の協同組合である全国農業協同組合連合会、漁業の協同組合である北海道漁業協同組合連合会。同じ協同組合として、ともに目指す未来とは。



(左から)安田 昌樹、熊崎 伸、桑田 義文、打越 和佳子

### 出席者 | 敬称略

全国農業協同組合連合会  
代表理事専務(当時)

桑田 義文

<プロフィール> 1983年 全国農業協同組合連合会 入会  
2012年 同連合会 本所 畜産生産部 部長  
2015年 同連合会 常務理事  
2019年 同連合会 代表理事専務  
2024年 同連合会 代表理事理事長

北海道漁業協同組合連合会  
代表理事専務

安田 昌樹

<プロフィール> 1987年 北海道漁業協同組合連合会 入会  
2010年 東京支店 支店長  
2012年 東京支店 参事  
2016年 常勤役員 代表理事専務  
2019年 常勤役員 代表理事専務

コープデリ生活協同組合連合会  
代表理事 理事長

熊崎 伸

コープデリ生活協同組合連合会  
ビジョン 2035 検討ワーキングチームリーダー  
統括部長(当時)

打越 和佳子

## 「ビジョン2035」の策定と、 農水畜産業を取り巻く現在の状況



**熊崎** コープデリグループは今年、「ビジョン2035」を策定しました。コープデリグループの将来を担う若手職員31人で検討ワー

キングチームをつくり、組合員と役職員とともに2年近くかけて練り上げられたビジョンです。「ビジョン2035」の目指すこれからの未来に向けて、同じ協同組合としてどのようなことができるのかをお話いただけたらと思います。まずはチームリーダーを務めた打越さんからビジョンと込めた想いを紹介します。

**打越** 私たちのビジョンはコープデリグループ536万人の組合員と2万5,000人の働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿を表したものです。組合員アンケートや役職員ミーティングの声を踏まえて、組合員の願いと地域の期待に応え、誰もが笑顔でいられる社会の実現を目指していこうと考えました。そのために組合員と働く仲間、そして生協を取り巻くさまざまな人々とも力を合わせることで未来をきりひらく想いを「ともに」の力」と表現しました。

**熊崎** この「ともに」の力を象徴するのが、生産者の皆さんです。最前線にいらっしゃるお二人に、農畜産業、水産業を取り巻く環境や情勢についてうかがいたと思います。

**桑田** JA全農はJAグループの中で、経済事業を担う全国連組織です。具体的なミッションは2つあります。1つは農畜産物をつくるために必要な生産資材である肥料、燃料、飼料などを生産者に向けて提供すること、もう1つはできあがった農畜産物を消費者や実需者に向けて販売することです。

生産者をめぐる情勢は、皆さんご存じのように大変厳しいものとなっています。少子高齢化が社会問題となって久しいですが、農業者数も減り続けています。2000年の統計では平均

年齢61.1歳、240万人だった基幹的農業従事者（主に農業で生計を立てる人）が、2023年には平均年齢68.7歳、116万人となりました。四半世紀たたないうちに半減したわけです。2040年には35万人に激減するという予測まで出ています。

一方、農家の収入源である農畜産物の価格は、市場流通が多いため、その日その日の入荷量の多い少ないで変動しています。苦勞して生産しても、適正価格で販売することが構造的に難しいのです。

さらには、気候変動による自然災害も多発していて、復旧には膨大な費用が必要です。円安にともなう資材価格高や物流経費の高騰の問題も深刻です。

**熊崎** 水産業は、いかがでしょうか。

**安田** 私たち北海道漁業協同組合連合会は、北海道にある74の漁協を中心とした経済・指導連合会で、通称「ぎょれん」と呼ばれています。各地で水揚げされる水産物の市場での荷さばき、加工、流通を担っており、水産物の販売事業や漁業用資材・燃料などの購買事業も行っています。また、指導事業として国や自治体の水産政策に対応したり、会員漁協に対する経営・漁政相談の窓口対応も行っています。

この4~5年で力を入れているのが、環境対策事業です。「ビジョン2035」で特に共感したのが、「次世代に笑顔が続く社会」というフレーズです。漁業者は口をそろえて「子孫の代まで魚を獲れるような環境づくりをしていかなければ」と話をしています。

ぎょれんは生産者の協同組合ですから、これまでも「共生」「助け合い」「わかり合い」という理念で運営してきました。



北海道のにしん漁の様子

近年、環境対策事業に本腰を入れていくなかで実感しているのは、今同じ時間を共有している人だけでなく、次世代の人たちと助け合い、わかり合う、もっと言えば、これから生まれてくる未来の人たちのために理念を共有していく必要があるだろうということです。

農畜産業や水産業といった第一次産業は肉体労働の側面もありますが、自然と対峙し環境問題にも積極的に取り組む創造産業であることを、私たち生産者団体はもっと発信すべきと思っています。全国各地で水揚げが減少しているとの報道が多くなっていますが、北海道の水揚げは100万トン台をキープしていますし、日本の水産物の3分の1の水揚げを北海道が占めています。水産資源が枯渇しないよう獲る量を管理・調整しながら事業を行っていることや、海に囲まれている日本は、生産者である漁業者の漁業活動を含めた日々の生活が、国境監視機能や海難救助活動等の多面的な機能も併せ持つことを、消費者の皆さんにもっと知っていただきたいし、正確な情報を届ける努力も必要だと考えます。

## 「未来の夢アンケート」に寄せられた組合員の願いと期待

**熊崎** コープデリグループは、生産者と消費者である組合員との懸け橋になりたいという思いで活動してきました。「ビジョン2035」の策定にあたって、組合員の思いや願いは何かを確認するためアンケートをとりました。打越さん、どんな声がありましたか。



Think Sustainable Price

**打越** 「未来の夢アンケート」として「2035年のくらしの願い」「コープへの期待」について、組合員からコープデリグループ合計で



6,000件を超える声が寄せられました。「地域の中で自分らしく自立した生活を送りたい」「みんなが笑顔で健康に暮らせる平和な世の中であってほしい」という願い、コープに対しては「生産者や日本の食料生産を守り、安全・安心な食を提供してほしい」「組合員のつながりを大切に、地域や社会の取り組みに活かしてほしい」という期待が寄せられました。

**熊崎** 組合員の声で特徴的だったのは、「私が幸せになるだけではなく、みんなが幸せにならないと、持続可能な社会は生まれてこない」という思いを、多くの人が抱いていることでした。コープへの期待として、「生産者も私たち消費者もWin-Winの関係になれるように、橋渡しをしてほしい」という意見が多く寄せられています。

このような声を踏まえて、「ビジョン2035」の「ともに」の力、というフレーズが生まれています。「ともに」幸せになるという力強いビジョンには、くらしのパートナーとしての生産者の皆さんへのリスペクトがあるのです。消費者である組合員に、商品を通じて生産側の情報をきちんと届けることが私たちコープの役割であると、改めて強く認識しました。

**桑田** コープの組合員さんのアンケートの声、とてもうれしいですね。ここで価格というものをどう考えたらよいかについて、少しお話しさせてください。生産者は高く売りたい、消費者は安く買いたい、これは自然なことではありますが、どうやら日本には「安い高い病」が蔓延してしまったようです。安いものが善で高いものを悪とする淡白な世の中になってしまいました。そんな背景から、全農では「<sup>まんえん</sup>食<sup>ん</sup>べる<sup>ん</sup>ことが一番の応援。 Think Sustainable Price」というメッセージを石川佳純さんを起用して幅広く発信しています。適正価格をみんなで考えようという発信です。



私たち生産者団体は、少しでも高く売りたいわけですが、そのためには消費者の皆さんに対して、「安くはないかもしれないけれど、価格ではない満足感がありますよ」と胸を張りたい。鮮度や味のほか、こだわりや作り手に対する信頼感なども満足感の形です。コープの組合員さん、職員さんは人とのつながりを大事にしてくださる、生産物に込めたこだわりも理解してくださる。そのご理解が安きにばかり流れようとする価格の下支えになり、農家を支えてくださっている。生産者とコープの組合員さんのつながりと信頼が強まることで、食料の安全保障の支えになり、「笑顔の明日」をつくっていくのではないかと、心からそう思います。

生産者団体と消費者団体がお互いにハッピーであるためには、「つながり」を強固にして、価格ではない満足感をつくり出す仕組みをつくっていかねばなりません。生産者と消費者のつながりは「Face to Face」が基本です。Webではなく<sup>ウェブ</sup>Webな<sup>フェット</sup>つながりを取り戻し、産地との交流会や、需給が崩れやすい米や牛乳などの難しい品目に関する勉強会を今後も続けていきたいと思えます。



**安田** 「未来の夢アンケート」の言葉に、大変勇気づけられました。今後は、消費者の要望に応えるだけでなく生産者側の立場も主張したプロ

ダクトアウト的な発想も必要になってくると感じます。例えば、獲れる魚種が変わってきつつある中で、産地の事情をきちんと把握しながら、増えてきている魚種をどうやって食べてもらうかというような発想です。水揚げした魚を活用した魅力的な商品づくりにも、コープの皆さんと「ともに」知恵を出し合って取り組んでいきたいですね。

今、日本の世帯で一番多いのは独身の単身世帯、次に多いのが高齢の単身世帯です。標準世帯の概念が変わってきていますから、商品開発もそれを踏まえて変えていかなければならない。



浜のクリーンアップ作戦

また、コープの組合員さんに知っていただきたいことの1つに、数年前から取り組んでいる「浜のクリーンアップ作戦」があります。漁業者自らが海岸を清掃して浜のごみを回収していますが、漁業由来のごみはさほど多くなく、漂着ごみや生活ごみが多い状況です。生活の中のごみが海を汚し、水産物に悪影響を及ぼしている。こういった情報を発信して、環境問題に対する関心を高めていきたいと考えています。

**熊崎** コープの組合員、職員は食材をどうすればおいしく食べられるかについて知恵を出すのが得意なので、商品開発に関して「ともに」できることがありそうですね。以前、北海道を訪れたとき、ぎょれんでは30年以上前から植樹活動もしているとうかがい、「海を豊かにするためには森が豊かでないと」という言葉に感銘を受けました。遠大な視野で環境問題に取り組んでいらっしゃる。

**安田** 1987年からスタートしたプロジェクトです。

**熊崎** そういった情報の共有もしていきたいですね。ビーチ<sup>のり</sup>クリーン活動に関しては、コープでも始めています。海苔の産地の千葉県富津市で、メーカーさん、職員、組合員が自主的に行っています。「全国一斉クリーンデー」を決めて、全国の漁業者団体の皆さんと「ともに」取り組むこともできるかもしれませんね。

## 「ともに」の力で 笑顔の明日を

**熊崎** 未来につながる話題がいくつか出てきましたが、改めてコープと皆さんとで「ともに」取り組んでみたい内容などをお話いただければと思います。



**桑田** 「ビジョン2035」の「「ともに」の力」と全農グループの経営理念である「生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋になります」は思いを

共有しているように感じます。これから一緒に取り組めることを模索していきたいです。

「ともに」取り組んでみたいことの1つに、組合員の皆さんの「簡便化ニーズ」に応える商品の開発があります。「簡単・時短がいいのだけれど、最後のひと手間だけは自分でやりたい」「なじみのある産直の新鮮野菜を使ったミールキットがほしい」といった多様なニーズに応えることが、協同することで可能になると思います。これまでも米粉を使ったお菓子などの開発・販売を「ともに」手がけてきましたが、もっといろいろなことを協同していきたいですね。例えば、現在の産地の困りごととしてこんにゃくの消費低迷があります。コンビニのレジ横にあるおでんがなくなって、こんにゃく芋の相場も大きく下がってしまいました。群馬県産のこんにゃく粉を使った商品開発はぜひやってみたいですね。また、協同組合間連携として、コープの皆さん、ぎょれんの皆さんとともに魚と農産品を使った栄養バランスのよい惣菜の商品開発なども。

「ビジョン2035」の最後に、「さまざまな組織・団体とつながり 次世代に笑顔が続く社会の一翼を担う」とありますが、本当にいい言葉です。ぜひ、「ともに」実現していきましょう。

**安田** 同感です。「ともに」商品開発を行っていきたいです。環境対策でも、古くなった漁業用網を廃棄せずにナイロン

ペレットに再加工し、衣料品や漁業用作業衣類などにリサイクルしたり、古くなった漁業用プラスチック箱からプラスチック再生品をつくっています。コープさっぽろさんの買い物のかご(マイカゴ)も、実はこのプラスチック箱をリサイクルしたものが一部利用されています。

それと、これはJAさんも一緒となりますが、食料自給の問題です。食料自給率という数字で語るのではなく、食料自給力を上げることを組合員さんとともに意識を深めていきたいですね。

環境問題については、100年先の未来を生きる人のために今何ができるのかという観点で取り組むことが大切なので、まさに「笑顔の明日を」を展望して、「ともに」活動を続けていきたいですし、次世代につなげていきたいと考えます。

**熊崎** お二人とも多岐にわたってお話いただき、本当にありがとうございました。

食料自給力は、組合員にとっても非常に関心の高い問題です。信頼できる、顔が見える関係の食を将来にわたって食べ続けられる暮らしが私たちの願いです。われわれもこの2年、「食べて未来へつなごう」というスローガンで活動していますが、コープができることの基本は、やはり「食べて応援」です。コープデリグループは536万人の組合員がいますので、生産者の皆さんと情報を共有しながら、あるいは協同しながら、「食べるしあわせ」を未来につないでいきたいと、決意を新たにしました。



商品の一例



**打越** 「食べるしあわせ」はビジョン2035の冒頭に掲げたメッセージです。生産から消費まで関わる人の表情が見える、これまで以上につながりを豊かにする想いを込めました。

組合員、役職員のアンケートでは「安全・安心な食、環境を次世代につなげたい。そのために自分ができることをしていきたい」との声もたくさん寄せられました。生産者の方々の課題や取り組みを知ることで、商品の見方が変わったり、新しい取り組みのアイデアが生まれるのだと思います。

**熊崎** 来年2025年は2度目の国際協同組合年なので、この3団体が「ともに」活動していける機会が多々あると思います。気持ちを合わせ、知恵を持ち寄って、より良い未来へとつなげていきましょう。

本日はありがとうございました。

## コープデリグループ ビジョン2035

# 食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で  
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります



JA佐渡との産地交流・研修会

# SDGsとコープデリグループ

「誰一人取り残さない」を理念に掲げ国連で採択されたSDGs。最近では、新聞やテレビ番組でも頻繁に取り上げられ、「SDGs」という言葉やその意味を全く知らないという人は、もはや少ないのではないのでしょうか。コープデリグループは世界共通の目標であるSDGsを指針とし持続可能な取り組みを進めています。

## ❖ 「持続可能」とは、今を生きる私たちも 未来を生きる人も幸せな社会をつくること

日本語では「持続可能な(Sustainable)開発(Development)目標(Goals)」と訳される通り、SDGsは未来を生きる人が困らないように、今を生きる私たちが、自分たちの都合だけで資源を使い切ってしまったら、自然を壊したりするのではなく、将来世代のニーズも見通しながら経済発展を行っていくという考え方です。同時に、今の世界に存在しているさまざまな矛盾や課題を今のうちに解決することで、将来世代が同じ問題で悩むことがないようにという思いも込められています。

SDGsが採択された2015年からすでに9年が過ぎ、達成年限の2030年まで残り6年になりました。目標の達成には取り組みの歩みを速める必要があります。コープデリグループはSDGs17の目標と169のターゲットに沿った5つの重点課題について、2030年までの数値目標を定め、SDGsの達成に向けて取り組みを加速させることを決めました。

## ❖ コープデリグループのSDGs重点課題

国際社会の共通目標であるSDGsとコープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。私たちはSDGsが国連で採択される以前からリサイクル活動やエシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。

「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定したものです。

しかし、私たちが掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することが困難です。目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。また、「未来へつなごう」をスローガンに掲げ、グループ全体でSDGs重点課題の目標達成に向け取り組みを進めていきます。

コープデリグループ  
理念

CO-OP  
ともに はぐくむ  
くらしと未来



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

## コープデリグループの SDGs重点課題



コープデリグループの  
マスコットキャラクター  
“ほべたん”

# 01

持続可能な生産と  
消費のために

P14-21

持続可能な生産と消費のために、  
商品とくらしのあり方を見直していきます



# 02

安心して暮らせる  
地域づくりのために

P22-29

誰もが安心してくらし続けられる  
地域社会づくりに貢献します

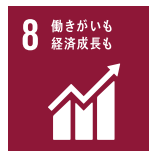


# 03

人にやさしく  
誇りが持てる  
組織を目指して

P30-31

1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます



# 04

100年後の  
地球のために

P32-35

再生可能エネルギーの利用・普及を進め、  
地球温暖化対策を進めます



# 05

世界中の人々の  
平和で健康な  
生活のために

P36-37

世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます





はなゆき農場(北海道足寄郡)で有機牛を育てる生産者の中村梢乃さん

# 01

## SDGs重点課題

### 持続可能な生産と消費のために



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

- 1 | 人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者(組合員)にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。
- 2 | コーペデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。
- 3 | 産地とパートナーシップを深め、持続可能な農水畜産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。
- 4 | 事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。
- 5 | サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。



## 持続可能な畜産業を目指す若手生産者を応援 ～産直はなゆき農場有機牛

有機牛の生産は飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JASの認定基準をクリアする必要があり、生産者の負担の大きさが課題となっています。

自然界の力を生かした畜産業を目指し、コープデリグループが若手生産者を支援する「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みが「サステナアワード2023」(主催:あふの環2030プロジェクト(農林水産省、消費者庁、環境省))で農林水産大臣賞を受賞しました。農場の様子や取り組みについて、受賞した動画をぜひご覧ください。



生産者の上田さん、中村さんと熊崎理事長

## 生きものにやさしい米づくりで、佐渡をトキのふるさとに ～佐渡トキ応援お米プロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2023年度は353万503円を寄付しました。

佐渡で取り組む生きものと共生する農業がトキの野生復帰を後押しし、今では500羽を超えるトキが佐渡の空を舞っています。



寄付額累計

3,627万2,095円

## 伊平屋島がこの先もずっと、 美しい島でありますように ～美ら島応援もずくプロジェクト

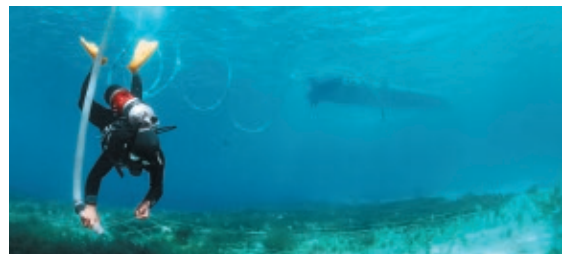
詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープの産直もずくの産地、沖縄県伊平屋島には、ウミガメがやってくる白い砂浜や美しい海が今も残っています。その自然環境のもと、良質なもずくが育てられていますが、近年、海から砂浜へ大量のごみが流れ着き大きな問題となっています。

2010年よりスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋村「美ら島応援基金」に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てる取り組みです。2023年度は174万2,056円を寄付しました。

もずくを食べることがウミガメや島の人の暮らしを守り、組合員の食卓の笑顔につながります。



寄付額累計

1,902万6,266円

## 日本のお米づくりをささえる、お米育ちの産直豚 ～お米育ち豚プロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



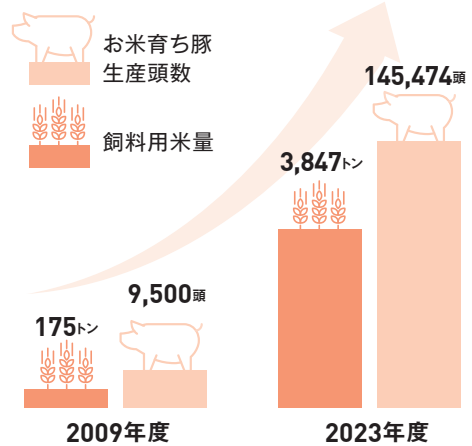
日本のお米の消費量は年々減少しています。2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは豚のエサ用のお米「飼料用米」をつくり、豚に飼料用米を食べてもらうことでお米の消費量を増やす取り組みです。

お米で育てた豚肉を組合員にお届けすることで、田んぼを守り、日本の農畜産業を元気にしています。

飼料用米を生産する田んぼ面積

# 641.1 ha

(1haあたりの収穫量6トンで算出)



## 有機JAS認証平飼い放牧鶏卵 ～CO・OP産直 黒富士農場 オーガニックたまご

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



山梨県甲斐市の山懐、標高1,100mで平飼い放牧される鶏が産む、日本でも数少ない有機JAS認証鶏卵を生産する「農業生産法人黒富士農場」を産直産地に指定しました。産地とのパートナーシップを深め、有機JAS認証鶏卵の取り組みを発展させていきます。

自然と共生する持続可能な畜産を目指し、アニマルウェルフェアに配慮した平飼い放牧では、オーガニックたまごの鶏たちは鶏舎と放牧地を自由に行き来し、のびのびと過ごしています。



### 利用者の声 ▶



卵が大大大好き。だからこそ、卵を産んでくれる鶏に感謝して、鶏が快適に過ごせる環境を作る生産者さんを応援したいと思っています。

放し飼いで育てて頂いた卵ならニワトリさんも幸せ! 私も幸せ!



※宅配で取り扱っています。

## 海を汚さない陸上養殖のサーモン ～おかそだちサーモン

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



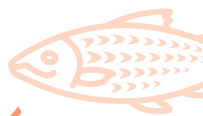
環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品であるASC認証を受けたおかそだちサーモンは、水を循環させ、海を汚さない独自の濾過システム「閉鎖循環式陸上養殖システム」で養殖されています。海水からの魚病リスクがないため抗生物質を使用していません。

一部店舗での取り扱いに加え、2023年9月からはコープデリ宅配でも取り扱いを開始しました。

おかそだちサーモン出荷量

# 8トン

(2023年度)

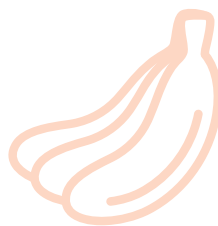




# 公正な取引で途上国の暮らしを支援する ～フェアトレードバナナ

フェアトレードとは開発途上国の農産物や製品などを農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。

コープデリグループでは、産地の自然環境や生産者の労働環境の改善などの、地域に合った特徴ある取り組みと結び付いているバナナを取り扱っています。その中でも、フェアトレードバナナは国際的な認証マークを取得するとともに有機栽培にも取り組んでおり、組合員からの支持を広げています。



フェアトレードバナナ供給重量

430.7 トン

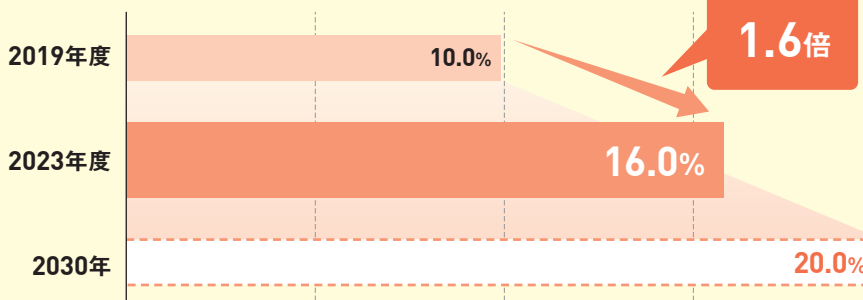
(2023年4月～2024年3月)



## 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

エシカル消費対応商品の供給高<sup>\*1</sup>構成比を2019年度比で**2倍(20%)**にします。



「ともに」取り組む

## 笑顔の明日につながるお買い物を

未来へ続く世界の実現のために、私たち生協は「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、エシカル消費に積極的に取り組んでいます。

エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。生協では地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」として、積極的に応援しています。

どうすればエシカルなお買い物ができるの？ そんな声をよくいただきます。商品を見ただけでは、私たち消費者にはそれが地域や環境、社会や人々に配慮したエシカルな商品なのか分かりません。

そこでヒントになるのは、さまざまな認証マークです。水産の資源を枯渇させないよう、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品につけられるMSC認証、一定の基準で農業や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品につけられる有機JAS認証などがあります。

最近では認証マークの種類も増えたことから売り場で「見つけて選びやすくする」ために「コープサステナブル」として、共通のロゴマークを表示しました。

ふだんのお買い物で「選んで買う」ことが、笑顔の明日につながります。



日本生活協同組合連合会  
コープのエシカル2024

主なエシカル消費対応商品

コープサステナブル商品

このロゴマークが目印!  
サステナブルな  
原材料を主原料に使用

取り組みの進捗とともに認証マークもいろいろ...そこで、統一のロゴマークをつけました!

※現時点では、産地指定・産地素材・産地など生協独自のマークは含まれません。

産地指定・国産素材

寄付金付き商品

パッケージや副原料  
に  
環境配慮した商品  
(エコマーク付き商品)

コープのエシカル2024より

## 1日に3食、1週間で21食の食事のうち、何食「お米」を食べていますか。 ～ワン・モア・ライスの取り組み

日本では、お米の消費量が減り続け、この50年で半分に。さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。

コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくお米を食べる量を増やして、お米の生産者の応援と食料自給力の維持向上につなげる「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。



ワン・モア・ライス  
特設ページ



### 参加者の声 ▶



お米を主食として食べた日は、腹持ちが良かった！日本人の身体に合っているんだなあ！と実感。

朝からホカホカのご飯が食べられて、1日頑張ろうと元気が湧きました。

## 高校生と「ともに」食品ロスの解決を考えたコープデリミールキット ～鶏団子と玉子豆腐のタイ風スープ

東京成徳大学高等学校で「SDGs」をテーマに研究しているゼミグループ「結YUI」(2023年度卒業)の皆さんと意見交換やミールキットの工場見学などを通して、約2年にわたり交流を深めてきました。利用者に「食品ロスや異国文化について学び考えてもらいたい」という想いのもと共同でミールキットを開発しました。

具材のひとつにミールキットを作る工程で廃棄されていた白菜の外葉を活用。外葉ならではの鮮やかな色味と食感を楽しめるよう工夫しました。



捨てずに  
活用した白菜の外葉

**174 kg**  
(2,900食×60g)

## 始まりは"もったいない"を減らしたい ～利用先がなく捨てられている原料を商品化

組合員広報誌の  
記事はこちら



規格外で流通できなかった素材や製造時に出る副産物など、食べられるのに利用先がなく捨てられてしまっている原料を商品化する取り組みを進めています。生鮮用の規格に沿わなかったバナナを使用したスムージーや、梅酒の梅のドライフルーツ、豆乳を絞った後に残るおからを無駄なく使ったドーナツなど、もったいないをおいしく食べて食品ロス削減に貢献できる商品の品ぞろえを拡充しています。

ドライフルーツ製造時に出るシロップを使った「CO・OPもっちりジュシー!フルーツゼリー」では製造工程を組合員向け広報誌で紹介。製造会社の想いや工夫を伝え、組合員からも「廃棄されていた原料から作られているとは知らず、大変驚きました。活用を考えた企業努力が素晴らしいと思います」などの声が寄せられました。



## ちょっとしたキズやサイズ不揃いも ～規格外農産物の取り扱い

詳細はWebで  
ご覧いただけます



ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて「不揃い」「ハネッコ」「天候被害果」として販売しています。

また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。

2023年度天候被害果・規格外農産物供給重量

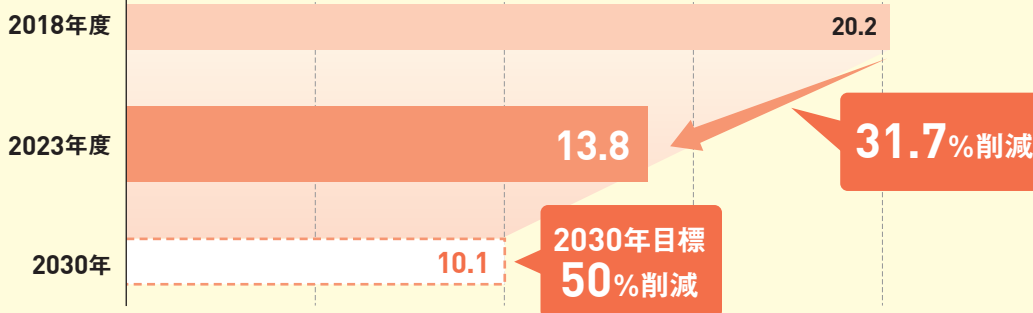
10,496 トン

### 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業における食品廃棄物を2018年度比50%削減します。

※店舗供給高当たりの最終廃棄量(単位:kg/千万円)



「ともに」取り組む

### 私たちの買い物が未来を変える

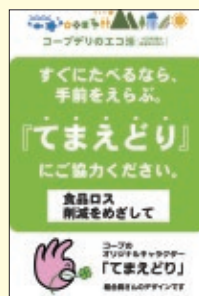
食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間472万トン※と推計されています。事業系の食品ロスが236万トン(50%)、家庭からの食品ロスが236万トン(50%)と、どちらも途方もない量です。私たち消費者も、家庭での食品ロス削減に取り組む必要があります。

「てまえどり」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。すぐに食べるなら陳列してある商品の手前から取って購入することで、店舗での消費期限、賞味期限切れによる食品廃棄物を減らすことにつながります。こうした私たちの行動により毎日のお買い物でも事業系の食品ロス削減に貢献することができます。恵方巻きやクリスマス・お正月商品などを予約して購入することで、無駄な生産をなくし、廃棄を減らす取り組みも進めています。

コープデリグループでは組合員がデザインしたキャラクターを活用した「てまえどり」の呼びかけや、農林水産省とともに取り組む恵方巻きの予約販売の呼びかけなどを通じて食品ロス削減を進めています。

手前から取る、予約する、そんな行動が笑顔の明日につながります。

※農林水産省「令和4年度推計」より



## 素材の約半量にリサイクル原料を使用 ～配達器材のリサイクルループを実現

コープデリ宅配では週1回の定期的な配達で使用する物流資材を一度の利用では廃棄せず、回収・洗浄し繰り返し使用しています。このうち、常温品を配達するために使用する折りたたみコンテナで再生原料の使用を開始しました。

リサイクル原料の使用率は41%～57%（サイズにより異なる）で、汚れや破損で使用不可となったコンテナも再生原料として使用します。2023年度は合計2万個を導入し、約11トンのプラスチック使用量を削減しました。



導入により  
削減した  
プラスチック

約 **11** トン

## プラスチック使用量を減らすために ～使用包材をもっと薄くしています

食品をお届けするには、衛生的な包装をなくすことはできません。コープでは使用している包装資材の厚みを薄くしたり、小さくするなどの工夫をしています。

2023年度は店舗で販売している一部のたまごのバックの形状を見直し、シート厚を10ミクロン（0.01mm）薄くしました。また、宅配でお届けする商品を個人別に包んでいる内袋の厚みを11ミクロンから10ミクロンに、店舗でお買い上げの商品を入れるロールポリ袋の厚みを5ミクロンから4ミクロンにするなどし、年間60トン以上のプラスチックの削減につなげました。



2023年度の取り組みによる  
プラスチックの削減量

**60** トン以上

## 声にこたえてミールキットをもっとエコに ～レシピカードを紙素材に

コープデリミールキットは水や油に強いプラスチック性のレシピカードを一部使用していましたが、組合員から「紙素材」に統一してほしいとの要望が継続的にありすべてのメニューについて紙素材に変更しました。

コープデリミールキットはこれまでも組合員の声にこたえてプラスチック容器の軽量化や容器のリサイクルに取り組んできました。2024年2月にはプラスチック容器から紙容器変更への実証実験として3商品約3万点を紙容器でお届けしました。紙容器でのお届けに対するアンケートを実施し、いただいた声をもとに改善を行い、よりエコなミールキットを目指します。



紙素材への変更により  
削減したプラスチック量

約 **9.7** トン

# 組合員の協力で回収したペットボトルを コープ商品の包材にリサイクル

詳細はWebで  
ご覧いただけます



コープデリで回収したペットボトルの一部はリサイクルの旅を経て、組合員のもとへコープ商品のパッケージフィルムに生まれ変わって帰ってきています。

ペットボトルは単一の素材でできているため、とても良質なリサイクル素材です。リサイクルによる再生品の活用において、石油から作られるプラスチックをペットボトルを再生したものに置き換えれば、その分の石油を使わずに済みます。そして、再生品を活用した商品を組合員が利用することでリサイクルの循環が生まれます。生協で回収したペットボトルを再生プラスチックの一部に使用した商品はこれからもさらに増えていく予定です。



取り扱い品目数

91品目

(2023年度末時点)



このフィルムが使用されるコープ商品の軟包材については、「生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています」との表示を入れています。



生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています。

## 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業における容器包装プラスチック使用量を2018年度比25%削減します。

※供給高当たりの重量(単位:kg/千万円)

2018年度

75.0

2023年度

65.5

12.6%削減

2030年

56.2

2030年目標  
25%削減

「ともに」取り組む

## 「断る」ことも、プラ削減の第一歩

お店で買い物をしたあとに、皆さんは何に入れて商品を持ち帰っていますか。

コープデリグループでは1990年代から組合員にマイバッグ持参を呼びかけています。レジ袋の有料化についても2020年7月の容器包装リサイクル法の改正による有料化以前から取り組んでおり、2023年度のマイバッグ持参率は85.9%と高い水準を維持しています。また、やむをえずレジ袋を購入する場合にも配慮し、コープデリグループの店舗で使用されるレジ袋は、サトウキビ由来のバイオマスプラスチック25%配合のレジ袋へ切り替えています。

コープデリオリジナルの保冷バッグや再生原料を使用したエコバッグを販売するなど、楽しく、自分らしいマイバッグを選べるようにラインアップしています。

「レジ袋はいりません」と断ることも、プラ削減の大切な取り組みとして私たちにできることのひとつです。



オリジナル保冷バッグ



再生原料を使用した  
エコバッグ



左：交通安全教室（コープながの）、右上：海のがっこう（いばらきコープ・コープぐんま）、  
右下：組合員による募金の呼びかけ（コープみらい）

# 02

## SDGs重点課題

# 安心して暮らせる 地域づくりのために



誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献します

- 1 | 暮らしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。
- 2 | 自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。
- 3 | 天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

## 長期休みに食の安全を楽しく学ぶ ～商品検査センターの学童保育向けオンライン見学会

詳細はWebで  
ご覧いただけます



コープデリ商品検査センターは、コープデリグループ自前の商品検査施設です。年間3万件以上の商品の検査を通じて組合員の食の安心につなげるとともに、食の安全について学べる商品検査施設として、組合員をはじめとする多くの方が来館しています(検査の内容・件数については41ページをご覧ください)。

2023年度はコープデリ宅配をご利用中の学童保育施設の児童に対して、春・夏・冬休みに計14回オンラインでの見学会を行いました。児童たちに楽しみながら食の安全を学ぶ機会を提供しています。



見学会に参加した施設数

参加した児童数



117施設

5,872人



(2023年度のべ参加数)

## 写真入りの見やすい注文書で、 誰でも注文しやすいコープデリ宅配に

ご高齢の組合員からの「品数が多すぎてカタログが見きれない」の声に応じて、カタログを見なくても注文書だけで注文が完結できる商品画像入り注文書(フルフォトOCR注文書)をご希望の方にお届けしています。

ご利用されている組合員の声に応え、利用実績に即した商品を優先的に掲載するなど、より利用しやすい注文書への改善を行っています。

※いばらきコープではご高齢の方々に編集した「らくらくコープデリ」を発行しています

利用者の声



写真がついているから見やすいし、注文書を見るのが楽しい。

最近、目がみえにくく、今までのOCRへの記入が大変だったから、この写真入りの大きな記入欄があるのはとっても助かる。



## 健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事メニュー ～学生とともに健康配慮のお弁当を開発

詳細はWebで  
ご覧いただけます



「毎日がすこやか美味しいコープデリ!」のコンセプトのもと、「産学連携包括協力に関する協定」に基づき女子栄養大学食文化栄養学科の学生が開発した、スマートミール※の認証基準をクリアした健康配慮のお弁当を一部店舗で販売しています。

弁当を包む「掛け紙」に描かれたイラストは、開発を担当した学生によるものです。食材一品一品を繊細かつ色彩鮮やかに表現。温かみのあるフォントの説明文が加わることで、楽しみながら、よりおいしく食べられることを追求しました。

※スマートミールとは：健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事メニュー。一食のうち、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷり食塩のとり過ぎにも配慮しています。摂取カロリーに基づき「ちゃんと」と「しっかり」の2基準があります。





# コープみらい

## 組合員が活動サポーターとして地域の学びに貢献します

コープみらいでは、社会のニーズや期待に応える担い手として組合員からなる「コープみらい活動サポーター」を養成し、出前授業プログラムをとおして地域社会の活性化に貢献しています。さまざまな社会課題を自分たちのくらしの身近なテーマに置きかえ、“食”“環境”“SDGs”について、ともに学び考え、これからの行動につながるきっかけとなる体験プログラムを用意しています。2023年度は活動サポーター44人により、小学校や保育施設、自治体などの要請に応じて1年間で203回の出前授業が開催され、6,457人が参加しました。



出前授業の様子

## 家庭に眠る未使用のはがきや切手を子どもたちの支援につなげます

コープみらい 子ども・子育て支援基金は、「はがき・切手回収キャンペーン」によりご家庭で使用されずに眠っている、書き損じ・未使用はがきや未使用切手等を組合員から寄せていただき、換金して得られる資金を原資としています。2023年度は組合員から27,920通の封筒が寄せられました。

寄せられた未使用切手はそのままでは換金が難しく、額面ごとに専用シートに貼る必要があります。この作業に1,239人の組合員ボランティアが取り組みました。寄付先の国内外で子どもの貧困問題等に取り組む団体の活動内容や子どもを取り巻く困難な状況について学んだ後、寄せられた切手を一枚一枚丁寧にシートに貼り付けました。



組合員による未使用切手の貼り付け作業

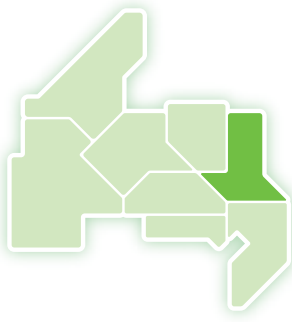
## コープみらいの概況

(2024年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみらい
住所	〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
電話番号	048-864-1181
理事長	熊崎 伸
設立年月日	2013年3月21日
組合員数	375万2,240人
組織率	27.6%

出資金	721億7,848万円
事業高	4,304億3,477万円
正規職員人数	3,125人
パート・アルバイト職員在籍人数	10,214人
宅配センター数	76センター
店舗数	127店舗
福祉事業所数	33施設





# いばらきコープ

## 県内で発生した豪雨災害への災害復旧活動に協力しました

いばらきコープでは、茨城県社会福祉協議会と「災害時における資機材の運搬に関する協定」を締結しています。2023年度は6月に発生した台風2号による被害、および9月に発生した台風13号による水害により、災害ボランティアセンターが立ち上がった自治体への資機材運搬を行いました。

また、9月には、福井県民生協より寄付いただいた被災地支援タオル1,130枚を災害ボランティアセンターにお渡ししました。福井県民生協の組合員が近年増加している水害の備えとして集めているタオルを、台風13号による豪雨災害の際に生協同士のつながりでご提供いただきました。



福井県民生協から贈られたタオル

## 返品されたペット用品を動物保護活動団体へ寄付しています

注文間違いなどの理由で組合員からペット用の商品(犬猫のえさやトイレシート・砂など)が返品されることがあります。いばらきコープではこれらの返品商品を無駄にせず、動物保護活動をしている県内の団体へ寄付する取り組みを行っています。2023年度は、「認定NPO法人 動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)」、「NPO法人 ニコ猫」へお渡ししました。

今後もいばらきコープは「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指し、地域社会に貢献する取り組みを進めます。



動物保護活動団体への寄付

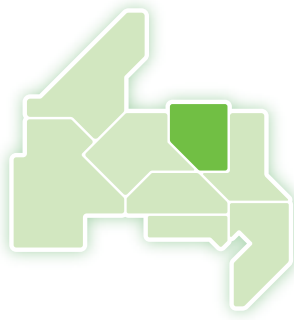
### いばらきコープの概況

(2024年3月20日現在)

名称	いばらきコープ生活協同組合
住所	〒319-0102 茨城県小美玉市西郷地1703
電話番号	0299-48-3243
理事長	木村 千秋
設立年月日	1971年10月24日
組合員数	40万4,761人
組織率	33.0%

出資金	143億297万円
事業高	445億1,634万円
正規職員人数	499人
パート・アルバイト職員在籍人数	851人
宅配センター数	12センター
店舗数	5店舗
福祉事業所数	3施設

※理事長は2024年6月現在



# とちぎ"コープ"

## 一人ひとりが尊厳を持って、安心して暮らせる「コープの家」

高齢者が安心して暮らせる賃貸住宅として、とちぎコープが建築・設置し、社会福祉法人 ふれあいコープが運営を担う「サービス付き高齢者向け住宅 コープの家」が2024年1月に完成しました。「コープの家」では、バリアフリー構造で快適な生活ができ、安否確認サービスや生活支援サービスなどが受けられます。隣接敷地内には訪問介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護があり、コープの宅配利用や移動店舗でのお買い物など、安心して充実した生活を送ることができます。

とちぎコープは2000年より福祉事業に取り組み、2006年に「社会福祉法人 ふれあいコープ」を設立し事業を移管しました。



サービス付き高齢者向け住宅「コープの家」外観

## 足尾の歴史や鉱害について学ぶ植樹体験&環境学習会を実施

渡良瀬川の源流に位置する足尾銅山の影響で荒廃した山々は、約100年前から緑化事業が続けられ緑化が進みつつあります。それでも、まだまだ草木のない裸地の斜面が残り、ひとたび破壊された自然を回復するには、長い年月がかかるのだと実感させられます。今回は環境学習の一環として比較的傾斜が緩やかな場所で植樹し、お子さんも自分で苗を植えました。植樹の後は環境学習センターで足尾の歴史や鉱害について学びました。歴史を学び、自らの手で実際に木を植えることで、環境問題をより深く理解することができました。



足尾の植樹体験&環境学習会

### とちぎコープの概況

(2024年3月20日現在)

名称	とちぎコープ生活協同組合
住所	〒321-0195 栃木県宇都宮市川田町858
電話番号	028-634-5115
理事長	塚原 政雄
設立年月日	1973年6月29日
組合員数	28万747人
組織率	34.4%

出資金	87億3,840万円
事業高	305億9,546万円
正規職員人数	277人
パート・アルバイト職員在籍人数	596人
宅配センター数	7センター
店舗数	4店舗
福祉事業所数	—



# コープぐんま

## 体験して学ぶお米の大切さ、下田農園『お米づくり体験』を実施

生産者の下田さんとともに田植えの体験を通じてお米づくりを学ぶ農業体験に、11組36人の親子が参加しました。13回目となる企画ですが、11組中7組が初めての農業体験となりました。下田さんへの質問コーナーでは「いつの時期が一番忙しいですか?」「田んぼに水がなくひび割れしている時がありますが、なぜですか?」などたくさんの質問が出され、お米づくりの大変さや工夫を学びました。

泥の中に足を踏み入れる初めての体験に、子どもたちも驚きから楽しさに変わり、良い体験ができたとの感想が寄せられました。



下田農園での田植え体験の様子

## 将来の夢をあきらめない、高校生への奨学金制度を開始

誰もが幸せに暮らし、安心できる地域づくりのために、組合員の皆さんと力を合わせて支えあえる取り組みを進めています。その一つとして、ひとり親家庭のお子さんが、将来の夢をあきらめることなく社会に出られるように応援する、奨学金制度の取り組みを開始しました。

組合員による奨学金応援サポーターの募金によって支えられているこの取り組みは、開始以降、多くの奨学金応援サポーターに登録いただき、2023年度は奨学生15人に奨学金を給付することができました。また、学生とサポーターがつながる奨学金応援サポーター通信を発行しています。



コープぐんま奨学金制度

## コープぐんまの概況

(2024年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープぐんま
住所	〒376-8523 群馬県桐生市相生町1-111
電話番号	0277-52-7711
理事長	大貫 晴雄
設立年月日	1956年4月23日
組合員数	35万1,894人
組織率	39.8%

出資金	62億5,158万円
事業高	354億2,676万円
正規職員人数	350人
パート・アルバイト職員在籍人数	950人
宅配センター数	8センター
店舗数	8店舗
福祉事業所数	1施設



# コープながの

## コープデリ宅配の集品センターで発生する予備品や返品商品をフードバンクへ

コープながのでは、食品ロスの削減や生活困窮者支援を目的に、2023年3月より、宅配商品の集品作業を行う「協栄流通(株) 須坂グロサリー集品センター」に入荷する予備のパンを、認定特定非営利活動法人フードバンク信州などの支援団体に寄付しています。同年11月には予備やケース納品による端数で発生した常温の食品類、2024年3月からは注文間違いなどで返品された日用品・雑貨品の寄付も開始し、コープながの・フードバンク信州・協栄流通(株)の3者の連携により寄付の幅が広がっています。



フードバンクへの寄付

## 沖縄戦と松代大本営から考える平和学習会を開催

2023年7月、近代史研究家の<sup>おびなた</sup>大日方悦夫氏を講師に迎えて平和学習会を開催し、オンラインと会場合わせて組合員、職員など約100人が参加しました。

長野市松代には「松代大本営象山地下壕」があります。松代大本営を使うことなく日本は終戦を迎えましたが、工事が行われていた間に続いた凄惨な沖縄戦の傷はいまだに深く残っています。参加者からは「長野県に沖縄戦と結び付く場所があることを初めて知りました」「戦争には流れがあり、平和に見えても、今もなお戦争は終わっていない事を認識しました」など平和を学ぶ大切さについての声が寄せられました。



平和学習会

### コープながのの概況

(2024年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープながの
住所	〒388-8555 長野県長野市篠ノ井御幣川668
電話番号	026-261-1200
理事長	丸山 辰明
設立年月日	1992年9月21日
組合員数	33万8,022人
組織率	39.7%

出資金	134億7,893万円
事業高	464億6,981万円
正規職員人数	468人
パート・アルバイト職員在籍人数	576人
宅配センター数	13センター
店舗数	2店舗
福祉事業所数	5カ所

※理事長は2024年6月現在



# コープデリにいがた

## アルビレックス新潟等と連携し未使用文房具を必要とする子どもたちへ

「未使用文房具寄付キャンペーン」を通じてコープデリにいがたの組合員さんからお預かりした未使用文房具とあわせ、道の駅たがみ(田上町)とJリーグクラブアルビレックス新潟ホームゲーム会場で実施したフードドライブでお預かりした未使用文房具について、2024年3月30日(土)アルビレックス新潟「ニイガタガミカタ」プロジェクトを通じて、新潟県フードバンク連絡協議会に寄贈いたしました。

これらの未使用文房具は、新潟県フードバンク連絡協議会を經由して、新潟県全域の必要とする子どもたちに届けられます。



未使用文房具寄付キャンペーン

## ゼロカーボンシティの推進に賛同し 新潟市の資源米を利用した指定ごみ袋に協賛

新潟市では、ゼロカーボンシティ(二酸化炭素の排出を実質ゼロとする都市)を目指す取り組みの一環として、「資源米(非食用米)」をバイオマスプラスチックの原料として利用した指定ごみ袋を導入することになりました。市内で取れた米を使い、市指定ごみ袋を製造するという、いわゆる地産地消での取り組みです。コープデリにいがたは、温室効果ガス排出削減を進める立場からこの取り組みに賛同し、ごみ袋への広告協賛を行いました。このごみ袋を利用することにより、二酸化炭素の排出を現在のごみ袋に比べ10%抑制することができます。



資源米を利用した指定ごみ袋

### コープデリにいがたの概況

(2024年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープデリにいがた
住所	〒950-1194 新潟県新潟市西区山田2309-7
電話番号	025-201-5550
理事長	登坂 康史
設立年月日	2022年3月21日
組合員数	23万9,683人
組織率	26.1%

出資金	58億41万円
事業高	285億7,551万円
正規職員人数	215人
パート・アルバイト職員在籍人数	295人
宅配センター数	8センター
店舗数	—
福祉事業所数	—



コープデリグループ子ども参観日

# 03

SDGs重点課題

## 人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



1人1人の人権・多様性が尊重され、誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

- 1 | 多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる職場をつくります。
- 2 | ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく職員が活躍し役割発揮できる職場をつくります。

## 全国の生協とともに被災地支援を ～令和6年能登半島地震への対応

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープデリグループでは、全国の生協とともに被災地で支援活動をする職員を石川県へ派遣しました。被災地の生協であるコープいしかわの配達業務支援や、被災されたCO・OP共済契約者への訪問活動、被災地の生活再建支援活動を行いました。

また、組合員に向けて緊急支援募金の協力を呼びかけ、コープデリグループ全体で5億円を超える募金が寄せられました(募金については40ページをご覧ください)。



### 職員の声



担当者も被災者でありながら、少しでも組合員さんのお役に立ちたいと職務に復帰されて業務をしている姿に感銘を受けました。私達も少しでもコープいしかわの力になりたいと感じた5日間でした。

【配達支援に参加】とちぎコープ 加藤さん



崩れたブロック塀を撤去していた際に、住民のおばあちゃんがお自身も手伝いながら、発災直後の状況やご家族の思い出話をされていました。被災者同士では弱音がいづらひので、外部のボランティアが受け止める役割として、お役立ちできればと思いました。

【生活支援に参加】コープデリ連合会 山崎さん

※所属は当時のもの

## 働く仲間の思いを大切に作り上げる ～ビジョン2035検討ミーティング

ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿です。コープデリグループには約2万5,000人の働く仲間がいます。ビジョン2035の策定では、働く仲間の参加も大切に進めてきました。2023年の秋にはコープデリグループの各職場でビジョン2035<1次案>の描いた未来を語り合うミーティングを開催し、店舗、宅配をはじめ、本部やグループ会社までたくさんの職員・社員が参加してビジョン2035に対する想いを寄せました。



参加者からのアンケート回答

6,779件



## イキイキと輝ける将来への道筋を描くため ～生協内インターンシップ

コープデリグループでは、若手職員が将来の働く姿を具体的にイメージし「将来自分もこの仕事をしてみたい」と目標に向かう道筋を描けるように、生協内インターンシップを2023年度から本格導入しました。他部署の仕事を理解し、やりがいを体感することで、職員一人ひとりが自律的に将来のキャリアを考えることができる環境づくりを進めています。

参加した職員からも「自分の知らなかった業務を知ることができ、日頃の自分の業務に対する意識についても考え直す良い機会となりました」との声があがっています。



参加した入社3～5年目の職員

114人



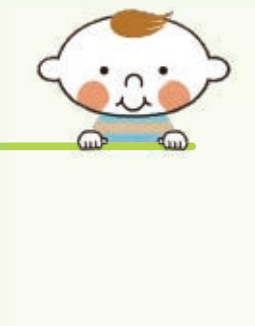


EVTラック出発式(とちぎコープ)

# 04

SDGs重点課題

## 100年後の地球のために



再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を進めます

- 1 | 事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。
- 2 | 再生可能エネルギーによる発電を増やし、調達電気の排出係数を低減します。



## CO<sub>2</sub>排出量の削減につなげる ～車両燃料の低炭素化

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2023年度はグループ全体で86台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動等で使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの実験導入も一部の生協で開始しました。



EV導入台数 **86** 台 

## 再生可能エネルギーによる発電をコープの施設で ～太陽光発電設備の設置

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、再生可能エネルギー創出・使用による電気由来のCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。

2023年度は6施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が526kW増え、年間237tのCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。



再生可能エネルギー  
発電能力(設備容量)



**10,567** kW

## 電気使用量の削減のために ～エネルギー効率の高い自然冷媒機器の導入

コープデリグループではエネルギー効率の高い自然冷媒を使った機器の導入を進めています。店舗の冷蔵・冷凍ケースのほか、宅配センターでお届けする前の商品を保管する冷凍冷蔵庫や物流センターの冷凍庫などへの導入を進めています。

冷媒とは、食品ショーケースや冷暖房装置で「熱」を運ぶ、重要な役割を持っているガスのことです。一般的に冷媒として使われているフロンは、漏れ出すとオゾン層を傷つけるだけでなく、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の約100~10,000倍もの温室効果があるといわれています。自然冷媒は、自然界にもともと存在するため、温暖化への影響をおさえながら、一般的な冷媒と比べて、電気使用量を年間約20%削減できます。



自然冷媒機器の  
導入施設数 **21** 施設 

## 店舗から出た食品廃棄物を電気に活用 ～バイオガス発電によるリサイクル

コープデリグループでは食品廃棄物を資源としてリサイクルしています。コープの店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2023年度93.3%と、食品リサイクル法の再生利用等の目標60%（食品小売業）を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオマス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。コープデリ連合会はバイオガス発電を行っているニューエナジーふじみ野(株)に出資し、食品廃棄物の有効活用とCO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギーの創出を進めています。



食品リサイクル率

93.3%

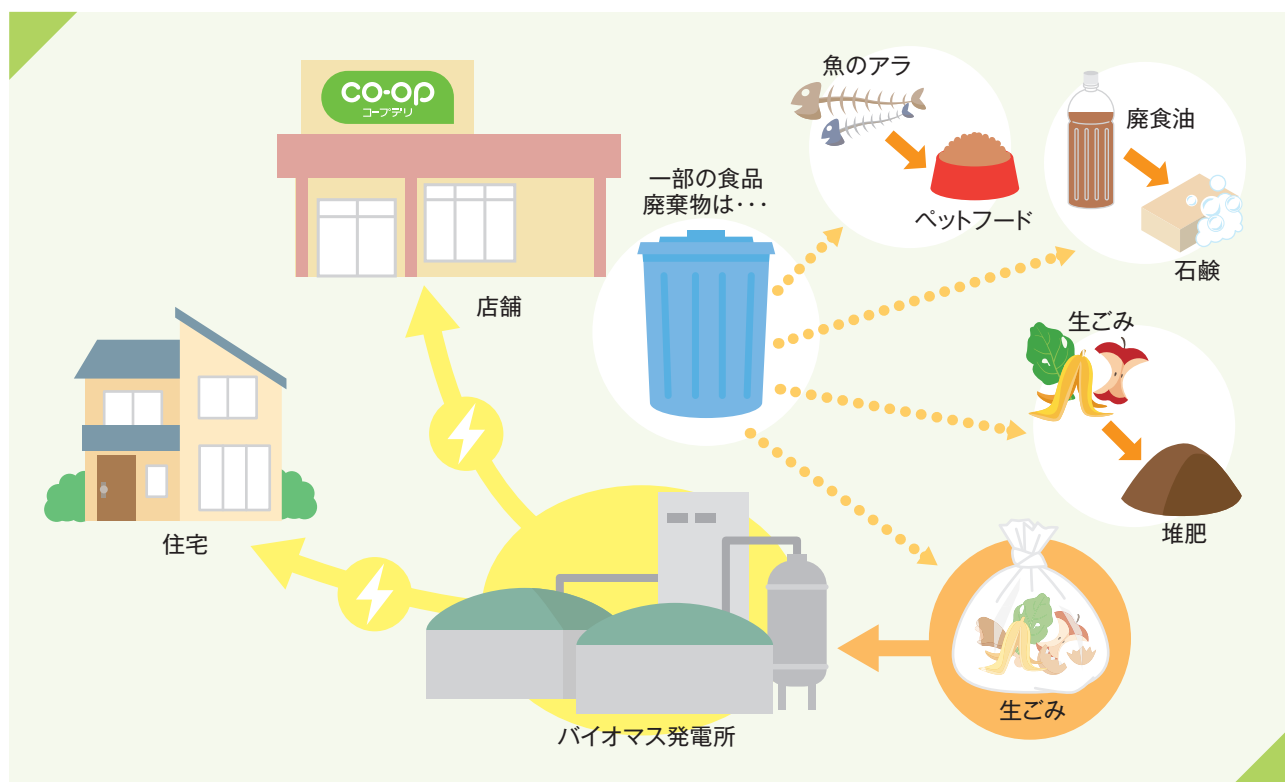
## 食品廃棄物から電気をつくり、 店舗や組合員のもとへ循環させる ～電気のリサイクルループを実践

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



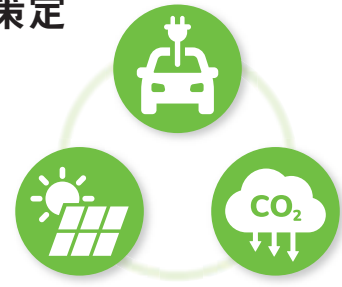
コープの店舗などから発生する食品廃棄物は、資源（燃料）として発電所に搬入して終わりではありません。食品廃棄物から発電された電気は、全国の生協の電力事業を担うために設立された日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として組合員のご家庭に届けられています。

店舗の廃棄物から発電した電気が、店舗や組合員のご家庭に届きます。再生可能エネルギーをつくり・つかう循環（ループ）を実践しています。



# 目標達成のための道筋を具体化 ～2030年温室効果ガス削減計画のロードマップを策定

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。2023年度から2030年度までの期間を2年ごとに4つのフェーズ(区切り)に分け、目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。



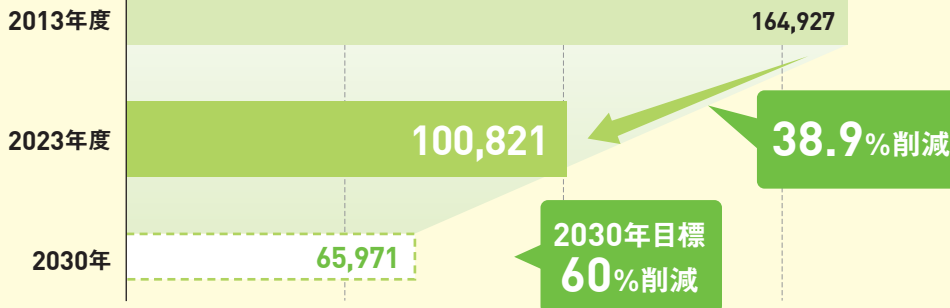
削減目標	第1フェーズ(2023-2024)計画	
	2023年度実績	2024年度計画
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宅配センター統廃合による効率化</li> <li>● 照明器具のLED化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷蔵・冷凍・生産加工機器の更新</li> </ul>
車両燃料低炭素化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車両EV化86台、車両HV化6台</li> <li>● 宅配センター統廃合による効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車両EV化67台、HV化62台</li> </ul>
再生エネ創出・使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自家消費太陽光発電6施設設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自家消費太陽光発電11施設の設置</li> </ul>

## 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業から排出される温室効果ガスを2013年度比60%削減します。

単位:t - CO<sub>2</sub>



「ともに」取り組む

## 100年後の地球のために学び続ける

この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。

コープデリグループの会員生協では、身近なエコを「知る・共有する・やってみる」のきっかけづくりとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で行っています。特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、森のがっこう、川のがっこうなどのがっこうシリーズやネイチャークラブ、エコ探検隊など、地域の中で体験できる企画を大切にしています。

100年後の地球のために私たちにできることは何かあるのか。次世代に笑顔が続く社会を作るきっかけのひとつとなるような学びの場を広めていきます。





ヒロシマ平和の旅

# 05

SDGs重点課題

## 世界中の人々の 平和で健康な生活のために



世界から飢餓や貧困をなくし、世界平和を実現できる取り組みを進めます

- 1 | 飢餓や貧困をなくし、世界の子どもたちを支援する活動を進めます。
- 2 | 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を進めます。

## コープの牛乳で子どもたちを笑顔に ～ハッピーミルクプロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます



2008年から続くハッピーミルクプロジェクトは、コープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援しています。

2020年度からは西アフリカのコートジボワール共和国を支援しています。5歳の誕生日を迎えることなく命を落とす子どもが減るように、ハッピーミルクプロジェクトによる支援で現地ボランティアが運営する栄養改善のための拠点を作り、母親たちへ栄養・育児の知識を広めています。2023年9月には役職員がコートジボワールを訪れ、支援の状況を視察しました。

2023年度は1,959万9,820円を寄付しました。



寄付額累計

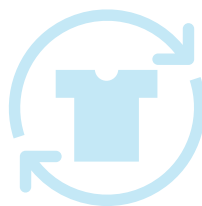
2億8,737万1,596円



## 不要になった衣料品を子どもたちの支援につなげる ～衣料品回収プロジェクト

不要になった衣料品を捨てずにリユース・リサイクルに活用してほしいという組合員の声に応じて、コープデリ宅配で衣料品等を販売する(株)スクロールとともに、衣料品回収プロジェクトを2023年8月に開始し、2024年3月までにのべ2,501人が衣料品回収キットを購入しました。

専用の回収キットを購入いただき、不要となった衣料品を詰めて返送いただくことで、回収した衣類をリユース・リサイクルにつなげます。さらに、売り上げの一部を国内外で子どもたちのみらいを創るための活動を行う団体に寄付しています。



2023年度  
寄付金額

91万3,150円

## ペットボトルキャップのリサイクル売却益を寄付 ～世界の子どものワクチンを

詳細はWebで  
ご覧いただけます



子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップをリサイクル資源として売却。売却益の一部を認定NPO法人 世界の子どものワクチンに 日本委員会(JCV)に寄付し、東南アジアを中心にワクチンや関連機器を送る活動に役立てていただいています。2023年度の寄付金額は193万3,800円。これはポリオワクチンに換算すると96,690人分となります。



©JCV

回収した  
ペットボトルキャップ

約7,735万個

※重量からの換算

# サステナビリティデータ

## Sustainability DATA



### 飼料用米の取り組み概況

	供給高(億円)	飼料用米重量(トン)	田んぼ面積(ha)**
豚肉	102.4	3,847	641
牛肉	1.4	112	19
鶏肉	2.3	79	13
鶏卵	19.7	1,075	179
合計	<b>125.8</b>	<b>5,113</b>	<b>852</b>

※1haあたりの収穫量6トンで算出

### 産直の概況

	産地・生産者団体数	産直供給高(億円)	産直構成比(%)
農産物	464産地	<b>294.9</b>	49.7
畜産	31団体	<b>206.2</b>	56.1
米	25団体	<b>113.5</b>	73.9
卵	36養鶏場	<b>85.0</b>	82.5
牛乳	4産地	<b>4.6</b>	2.6
水産	13産地	<b>21.0</b>	4.8

### 規格外・余剰農産物供給高

商品名	内容	供給高(億円)
規格外 (ふぞろい・ハネツコ・天候被害果)	形の悪い、大きさが規格外、少しキズがついているなど、食べるのには問題ない農産物を農家も組合員も笑顔になれるちょっとだけお得な価格で販売しています。	<b>55.5</b>
もったいないセット	宅配では不良などに備えて、予備品として産地・取引先から多めに農産物を入荷しています。使わず余った農産物を無駄なく召し上がっていただくために、セットにして販売しています。	<b>0.2</b>
産地支援セット	異常気象による天候被害果や豊作で余ってしまった野菜をセットでお届け。ちょっぴりお買い得で、農家も組合員もお互い笑顔になれる野菜セットです。	<b>0.8</b>

## 認証マーク付商品供給高

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
有機JAS	一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	37.5
MSC	水産の資源を枯渇させないように、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品です。	64.3
ASC	環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品です。	
アラスカのRFM	アラスカの責任ある漁業管理のもと持続可能な漁業で漁獲された水産物です。	
BAP	責任ある養殖管理の下で育てられた水産物です。	
MEL	水産資源の継続的な利用を図るため、資源管理と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。	

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
レインフォレスト・アライアンス	人と自然にとってより良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味しています。ra.org/ja	26.8
フェアトレード	開発途上国の農産物や製品などを不当に安く買うのではなく、農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。	0.7
RSPO	「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を応援する商品です。	23.0
FSC	責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。	373.0
エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	327.4

## 寄付金付き商品等の状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先	寄付金額(円)	寄付金の活用内容
ハッピーミルクプロジェクト <sup>*1</sup>	日本ユニセフ協会	19,599,820	「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」 「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」
佐渡トキ応援お米プロジェクト	佐渡市トキ環境整備基金	3,530,503	佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や 「環境にやさしい佐渡米づくり」
美ら島応援もずくプロジェクト	伊平屋村美ら島応援基金	1,742,056	島の海岸清掃など自然環境の保護や、もずく産業の活性化
grow(グロー)	grow基金	1,260,316	メキシコの農園労働者への医療サービス提供 や子どもたちの教育などの支援
北カリマンタン マングローブ基金	北カリマンタンマングローブ基金	463,311	エビの産地であるインドネシア北カリマンタン 州の環境と未来の水産資源を守るマングローブ 植樹活動
インドネシア・エビ養殖業改善 プロジェクト <sup>*2</sup>	WWFジャパン	1,107,780	環境と社会に配慮した責任あるエビ養殖業へ 転換する取り組みを支援
コアノスマイルスクール プロジェクト <sup>*2</sup>	日本ユニセフ協会	1,232,421	アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環 境づくり(学校のトイレ・水の整備、教師の育成)
CO・OP×レッドカップ キャンペーン <sup>*2</sup> (2023年10月1日~11月10日)	国連WFP協会	1,393,625	ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食 を届ける取り組み
洗剤環境寄付キャンペーン <sup>*2</sup>	WWFジャパン	446,855	インドネシア各地の小規模パーム農園の持続 可能な生産などを推進するプロジェクトを支援
障害者ノルディックスキー応援 キャンペーン <sup>*2</sup>	日本障害者スキー連盟	206,924	日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチ ームの次世代を担うジュニアチーム(10~20代) の合宿・国際大会遠征支援など
スマイルグリーンプロジェクト <sup>*2</sup>	WWFジャパン	719,281	ブラジルのアトランティックフォレストで実施す る、森林再生などの活動を応援
ピンクリボン運動 <sup>*2</sup> (2023年9月1日~10月20日)	認定NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)	248,121	乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援

<sup>\*1</sup> この寄付金額には組合員からの募金を含みます

<sup>\*2</sup> コーペデリグループでの対象商品供給高(売上高)に基づき、日本生協連が寄付金を拠出しています

緊急支援募金の実施状況

生協名	令和6年能登半島地震 緊急支援募金 (2024年1月8日~3月31日)	ガザ・イスラエル人道危機 支援募金 (2023年12月18日~2024年2月18日)	ユニセフ 「自然災害緊急募金」 (2023年9月25日~10月20日)
コープみらい	326,136,668	47,634,825	48,895,758
いばらきコープ	36,223,938	5,803,528	5,805,467
とちぎコープ	25,233,621	3,573,952	3,305,663
コープぐんま	27,155,663	3,728,290	3,616,478
コープながの	73,348,418	11,213,082	11,257,676
コープデリにいがた	44,152,321	6,893,391	6,606,070
合計	<b>532,285,716</b> ※	<b>78,847,068</b>	<b>79,487,112</b>

※グループ会社による募金を含みます



【令和6年能登半島地震緊急支援募金】  
職員ボランティアによる炊き出しの様子



【ガザ・イスラエル人道危機支援募金】  
日本赤十字社への寄付金贈呈



【ユニセフ「自然災害緊急募金」】  
日本ユニセフ協会への寄付金贈呈

会員生協募金・寄付状況

生協名	ユニセフ募金	ふくしま復興応援募金	平和募金・平和の旅募金	はがき・切手回収 キャンペーン*
コープみらい	41,390,679	13,935,506	2,495,498	27,738,804
いばらきコープ	1,227,196	1,836,534	496,334	1,882,617
とちぎコープ	391,752	504,164	6,500	1,352,932
コープぐんま	895,384	492,721	364,593	1,267,397
コープながの	1,517,939	1,051,475	-	13,033,431
コープデリにいがた	528,421	415,231	175,300	2,698,290
合計	<b>45,951,371</b>	<b>18,235,631</b>	<b>3,538,225</b>	<b>47,973,471</b>

※コープながのは、認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールドの「書き損じはがき回収キャンペーン」に取り組んでいます



## 「組合員の声」受付件数

受付方法	声の経路	件数(件)	前年比(%)
こえのポスト(宅配)	組合員が書いたカードで寄せられる声	17,023	91.6
こえのポスト(店舗)		1,383	106.2
観たこと聴いたことカード	職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声	65,602	101.4
お問合せ案内センター	電話・メールで寄せられた声	36,210	92.5
商品お申し出受付カード	商品に対するお申し出・ご指摘	12,368	90.2
合計		132,586	96.5

## 商品検査実績(検体数)

		日本生協連 商品検査センター	コープデリ 商品検査センター	合計 (検体数)
微生物や食品中に 残存する 化学物質等の検査	微生物	1,861	26,488	28,349
	残留農薬	1,893	842	2,735
	残留動物用医薬品	305	76	381
	食品添加物	255	116	371
	カビ毒	28	111	139
	ヒスタミン	25	465	490
	放射性物質	383	561	944
食品の品質や 規格成分の検査	栄養成分・品質	1,636	823	2,459
	内容量	253	0	253
	官能	2,749	4	2,753
	品温	0	279	279
食品表示を確認する検査	特定原材料	1,945	430	2,375
	遺伝子組換え	7	48	55
	品種・肉種判別	116	124	240
	産地判別	0	11	11
施設衛生検査		0	3,583	3,583
その他(上記以外)		359	310	669
合計		11,815	34,271	46,086

検査内容が重複しないよう、日本生協連の商品検査センターと連携して取り組んでいます

リサイクル資源回収量

回収品目	宅配のみ		宅配・店舗				店舗のみ
	商品とカタログのお届け用ポリ袋	商品カタログ・チラシ	飲料用紙パック	ペットボトル	食品トレー	たまごパック	アルミ缶
回収量 (kg)	622,565	43,989,403	1,005,809	1,235,565	577,681	234,359	188,696
前年比 (%)	97.5	96.0	97.6	100.2	94.5	102.9	97.4
CO <sub>2</sub> 削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	1,619	25,514	503	4,448	3,639	867	1,623

食品リサイクル率

	コープみらい	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	コープながの	コープデリにいがた	合計
リサイクル率 (%)	94.5	100.0	99.9	59.8	97.1	-	93.3

※店舗事業でのリサイクル率です。コープデリにいがたに店舗はありません

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み状況

	コープみらい	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	コープながの	コープデリにいがた	コープデリ連合会
女性職員比率 (%)	21.2	23.7	23.4	32.9	22.0	18.5	30.6
女性管理職比率 (%)	10.2	8.5	7.1	7.1	11.5	0.0	18.0
育児休職 (人)	83	20	12	7	34	19	11
男性職員の育児休職取得率 (%)	97.1	71.4	100.0	66.7	94.1	83.3	75.0
育児時短 (人)	62	8	3	8	11	3	31
子の看護休暇 (人)	113	9	15	14	17	1	32
配偶者出産休暇 (人)	64	8	9	6	16	3	3
障がい者雇用率 (%)	2.61	2.89	3.24	3.10	2.33	3.16	3.13
定年後再雇用 (人)	19	21	15	22	11	5	11

コープデリグループのダイバーシティの推進概況は [こちら](#)



# ガバナンス・内部統制

コープデリグループは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

## コープデリグループにおけるガバナンス

コープデリグループにおけるガバナンスは、会員生協とコープデリ連合会が、経営の透明性、健全性、公正さ、適正さを維持しながら、経営の効率性を高めることを目的としています。

会員生協とコープデリ連合会がそれぞれの「経営責任と経営相互牽制責任」および「役割分担」を明確にして、健全経営を全うします。コープデリ連合会が受託した業務の会員生協から連合会への監督牽制機能が有効に機能するように、理事会をはじめ、各種会議、委員会を運営しています。

コープデリ連合会総会はガバナンスの土台である組織の最高議決機関として、毎年6月に開催し、事業報告や事業計画・予算、役員(理事・監事)選任などの議案を議決します。

## 業務執行体制

理事会は、コープデリ連合会総会の決定を受けて、戦略的な経営意思決定としての基本政策および業務執行に係る重要な事項について、隔月で開催し、審議・決定を行います。

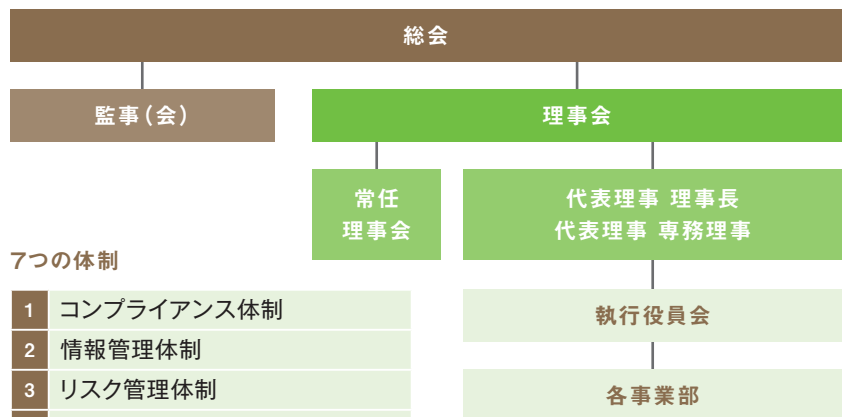
経営執行の迅速化に対応して、毎週、常任理事会を開催し、コープデリグループの政策・事業・方針・業務運営などに関する重要事項の協議・議決と連帯政策や地域政策、会員生協間の交流を図っています。

監事は、事業の適正さを確保するため、定款および監事会規則・監事監査基準に基づき、監査を実施しています。会計監査は、監査法人と協力しながら進めています。

専務理事の諮問機関として「商品・宅配・店舗」の3委員会を設置しています。各会員生協の組合員理事で構成し、消費者・組合員としての見識のもと、各事業に関する政策協議を行います。

サステナビリティ推進体制として、コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」に沿って、課題・目標を常任理事会で確認し、進捗管理を行っています。

コープデリ連合会組織図



## 7つの体制

1	コンプライアンス体制
2	情報管理体制
3	リスク管理体制
4	効率性確保体制
5	グループ会社など業務適正確保体制
6	監事監査確保体制
7	監事への報告に関する体制

## 内部統制について

コープデリグループ・コープデリ連合会は、「内部統制に関する基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。

リスク管理については、毎年事業経営に与えるリスクを洗い出し、リスク評価から共通重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2023年度は、コープデリグループ全体で666項目のリスクを洗い出し、評価を行い、124項目の重点リスクを設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

## コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習(情報セキュリティを含む)を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室(ヘルプライン)および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

## 危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関わる具体的な手順を整備し運用しています。さらに、マルウェア等のサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や個人情報や機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

## 地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープデリ連合会では会員生協、グループ会社とともに大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるよう「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的実施しています。

# フードチェーンにおけるSDGs活動MAP

※ フードチェーン: 食料の生産、加工、流通、販売、消費までの一連の流れ



コープデリグループは商品開発・調達から商品利用後まで続くフードチェーンにおいて、SDGsに関するさまざまな活動を行っています。またフードチェーンのさまざまな工程において、一人ひとりの組合員が学び、知識や工夫を広げ、行動することで、誰ひとり取り残さない社会づくりに貢献しています。

## 供給（販売）

## 商品・サービス利用

## 商品利用後



誰でも見やすい  
商品画像入り注文用紙



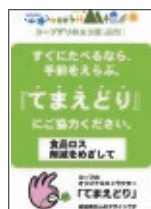
自然冷媒の  
冷凍ケース



容器包装の  
プラスチック削減



食べて  
未来へつなごう



てまえどり



商品の利用を通じた社会貢献



リサイクルへの組合員の参加



組合員から回収したペットボトルを  
リサイクルした商品包材



ペットボトルキャップを  
リサイクルした買い物かご



組合員のフードドライブ活動

# コープデリグループのサステナビリティ活動のあゆみ

～1960s >

1970s >

1980s >

1990s >

コープデリグループへの参加  
会員生協の発祥と

- 1947 高階村生協(旧さいたまコープの前身)、1949 登戸生協(旧ちばコープの前身)、1957 桐ヶ丘団地生協(旧コープとうきょうの前身)(いずれも現コープみらい)設立
- 1949 長野電鉄生協、1953 長野県学校生協、1955 飯田生協(南信生協)、1967 長野生協(いずれもコープながのの前身)設立
- 1955 新潟県勤労者福祉対策協議会(旧コープクルコの前身・現コープデリにいがた)設立
- 1956 桐生中央消費生協(コープぐんまの前身)設立

- 1971 水戸市民生協(いばらきコープの前身)設立
- 1973 宇都宮市陽南地域生協、1974 宇都宮市民生協、1977 安佐市民生協、1978 足利市民生協、1978 栃木県南生協(いずれもとちぎコープの前身)設立
- 1975 長野県民生協(コープながのの前身)設立

- 1986 北関東協同センター設立  
市民生協にいがた(旧コープにいがたの前身・現コープデリにいがた)設立



共同購入の荷分けの様子

- 1992 コープネット事業連合(現コープデリ連合会)設立、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、ちばコープ、さいたまコープが加入
- 1999 コープとうきょうがコープネット事業連合に加入



コープネット事業連合第1回通常総会

特徴的な社会的活動

労働組合や消費者団体とともに物価値上げ反対運動に取り組む



「生協婦人大集会」参加組合員のエプロンデモ(提供元：日本生協連資料室)

産直事業の始まり



産直産地の見学

- 1979 「バケツ1杯の水」を贈る運動としてユニセフ募金の取り組み開始

牛乳パックリサイクル運動開始

リサイクルの牛乳パックなどの再生紙を使ったコアノンロール発売



社会に先駆けて開始した組合員による牛乳パックリサイクル運動



くらしを守り生協規制に反対する全国生協組合員大集会

くらしの困りごとを組合員同士で助け合う「くらしの助け合い活動」の広がり

- 1995 阪神・淡路大震災被災地での職員・組合員ボランティアなどによる被災地復興支援活動
- 1996 自然災害に対する国民的保障制度を求める運動
- 1999 食品衛生法抜本改正運動

主な事業・活動

- 1948 消費生活協同組合法(生協法)成立・施行
- 1951 日本生協連設立
- 1960 CO・OPバター(コープ商品第1号)誕生
- 1966 組合員アンケート、5000人による使用テストを経て衣料用洗剤「CO・OPソフト」発売

組合員テストによる商品開発第1号CO・OPソフト(洗剤)



週1回定曜日配達共同購入のしくみが全国に広まり、物価高騰と有害食品不安のなかで急速拡大  
班活動を中心とした組合員活動が広がる

- 1970 コープ商品政策に unnecessary 食品添加物を排除することを明記
- 1971 「CO・OP無漂白小麦粉」発売
- 1973 「CO・OP無着色たらこ」「CO・OP無漂白塩かずの子」発売
- 1976 日本生協連商品検査センター開設

共同購入の定着とOCR注文システムにより組合員が飛躍的に増える

各生協で独自コープ商品の開発が進み、商品の開発・普及に多くの組合員が参加

- 1981 「CO・OPミックスキャロット」発売

1990 生協独自の環境統一マークを制定  
日本で初めて「ステイオンタブ缶」の商品を開発



←昔のプルタブ缶  
現在のステイオンタブ缶→

- 1992 ICA(国際協同組合同盟)東京大会

社会の動き

- 高度成長期
- 消費革命、流通革命(スーパーマーケットチェーン展開)
- 公害、大気・水質汚染、泡公害問題が顕在化
- 消費者運動などの社会運動の広がり
- 1960 日米安保条約改定  
国際消費者機構結成
- 1964 第1回全国消費者大会
- 1966 公正取引委員会、テレビ価格協定廃棄勧告
- 1968 消費者保護基本法施行

- 甘味料チクロの食品添加物指定取り消し問題、PCBなど有害食品や不当表示などが社会問題に
- 石油危機による物価高騰や物不足
- 団塊世代の結婚ラッシュ、第2次ベビーブーム
- 1971 環境庁設置
- 1972 沖縄復帰  
日中国交正常化
- 1973 大規模小売店舗法公布  
第1次石油ショック
- 1976 中小企業分野法による生協規制の動き
- 1977 原水爆禁止世界大会統一開催

- 貿易摩擦、輸入食品の急増、残留農薬問題
- 食品添加物の国際標準化・規制緩和
- ごみ問題への関心が高まる
- 1984 大店法による生協規制の動きが最大化
- 1989 消費税導入(3%)
- 1989 平成に改元  
日経平均が史上最高値

- 流通業の競争激化
- 消費者の価値観の多様化・消費行動の変化
- O157、ダイオキシン、環境ホルモン、遺伝子組換え食品
- 1991 湾岸戦争勃発
- 1992 経済企画庁「景気拡大」の表現外す
- 1994 製造物責任法(PL法)制定  
被爆者援護法制定
- 1995 阪神・淡路大震災  
容器包装リサイクル法制定
- 1997 消費税5%に  
相次ぐ金融機関の破綻
- 1998 被災者生活再建支援法制定  
食品衛生法改正

コープデリグループの会員生協の歴史は、一人ひとりの力は小さいけれども、地域の人々が話しあい、協力しあって、くらしや地域をより良くしようとしてきた活動に満ちあふれています。その活動はSDGsが掲げる目標そのものでした。私たちはこれからも、くらしに関するコミュニケーションを広げ、国際社会の相互理解を基礎とした平和を追求し、人が自然と共生できる社会システムづくりを通して、持続可能な社会をつくり、次世代へ継承していきます。

> 2000s > 2010s > 2020s

- 2005 コープながのがコープネット事業連合に加入
- 2007 市民生協にいがたがコープネット事業連合に加入



事業ブランド「コープデリ」、  
グループキャラクター「ほべたん」

- 2017 コープネット事業連合をコープデリ連合会に組織名称変更  
コープクルコがコープデリ連合会に加入



コープデリ商品検査センター拡張移転

- 【2024年現在のコープデリグループ会員生協】
- コープみらい
- いばらきコープ
- とちぎコープ
- コープぐんま
- コープながの
- コープデリにいがた

- 2000 食品衛生法の改正を求める請願署名
- 2001 生協の食育運動「たべる、たいせつ」開始
- 2008 ハッピーミルクプロジェクト、お米育ち豚プロジェクト開始
- 2010 佐渡トキ応援お米プロジェクト、美ら島応援もずくプロジェクト開始



- 2011~2019 「東日本大震災復興支援募金」
- 2011 東日本大震災に対し緊急支援物資の提供  
職員・組合員ボランティアによる復旧・復興支援  
放射性物質自主検査公表開始
- 2013 「福島第一原子力発電所における汚染水問題に関する要請」を政府に提出
- 2016 「熊本地震緊急募金」
- 2017 「九州北部豪雨災害緊急支援募金」
- 2018 「原子力発電に頼らない再生可能エネルギーを広げる政策を求める声明」を発表
- 2019 「台風15号被害緊急支援募金」  
「台風19号被害緊急支援募金」

- 2020 新型コロナウイルス感染症関連募金・寄付金・団体助成、「2020年7月豪雨災害支援募金」
- 2021 「コープデリグループのSDGs重点課題～長期目標と中期方針～」策定  
「2021年8月大雨災害支援募金」  
SDGs重点課題推進スロガン「未来へつなごう」策定
- 2022 温室効果ガス排出量削減目標の引き上げ  
「ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻に対する抗議文」を発信  
「ウクライナ緊急支援募金」  
「トルコ・シリア地震災害緊急支援募金」
- 2023 ユニセフ「自然災害緊急募金」  
「ガザ・イスラエル人道危機支援募金」
- 2024 「令和6年能登半島地震緊急支援募金」

個人宅配の急速伸長



- 2006 コープデリグループ理念、2015年ビジョン制定
- 2007 グループシンボルと宅配事業ブランド「コープデリ」を発表  
インターネット注文システム「eフレন্ズ」スタート
- 2008 「CO・OP手作り餃子」重大中毒事件

- 地域の居場所づくりの活動として「ひろば活動」の広がり
- 2012 コープデリタ食宅配の事業エリアが拡大
- 2013 ミールキット(そろってGood!)開発
- 2014 コープネットグループの目指す姿「ビジョン2025」を策定  
コープネットグループの「フードディフェンスガイドライン」制定
- 2016 「産直コープの里」策定
- 2017 「コープデリでんき」事業開始  
乳幼児向け商品シリーズ「きらきらステップ」発売  
ナチュラル&オーガニックカタログ「VieNature」開始
- 2018 コープデリ商品検査センターを移転・拡張し開設

- コロナ禍でも食のインフラとして、巣ごもり需要を支える
- 2021 コープサステナブルシリーズ誕生
- 2022 コープデリ連合会創立30周年で「環境」「食」のシンポジウム開催  
くらし応援全国キャンペーン実施  
産直はなゆき農場有機牛発売
- 2024 コープデリグループ  
ビジョン2035策定



- 2000 消費者契約法制定
- 2001 米国同時多発テロ  
国内でBSE感染牛を確認
- 2003 イラク戦争勃発  
食品安全基本法制定  
食品衛生法抜本改正  
食品安全委員会発足
- 2004 消費者基本法成立  
新潟県中越地震
- 2005 京都議定書発効
- 2007 生協法の抜本改正  
新潟県中越沖地震
- 2008 リーマンショックによる世界同時不況
- 2009 消費者庁、消費者委員会発足

- 2011 東日本大震災、東京電力福島第一原発事故  
LINEサービス開始
- 2013 特定秘密保護法成立
- 2014 消費税増税(8%)  
ウクライナ紛争
- 2015 国連でSDGsを採択  
安全保障関連法成立  
パリ協定採択
- 2016 平成28年(2016年)熊本地震
- 2019 令和に改元  
消費税増税(食料品以外10%)

- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行
- 2020 2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ宣言
- 2021 核兵器禁止条約発効
- 2022 ロシアによるウクライナ侵攻  
成人年齢18歳に引き下げ  
原油急騰  
円安値上げラッシュ  
国内で鳥インフルエンザ猛威を振るう  
世界人口が80億人突破
- 2023 トルコ・シリア地震  
イスラエルとパレスチナ武装勢力による武力紛争
- 2024 令和6年能登半島地震

# コープ(生協)ってなんだろう

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

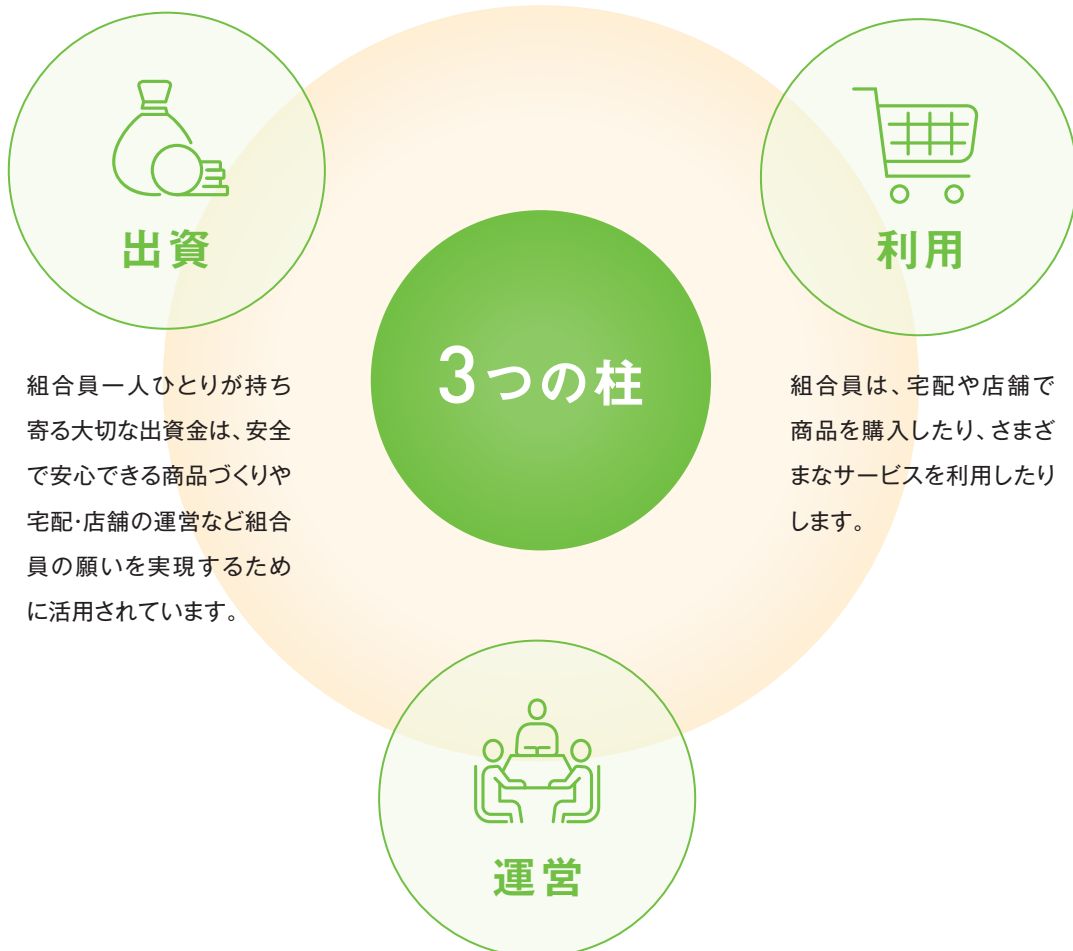
生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合などと同じ「協同組合」です。

世界中に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」にのっとり運営

されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

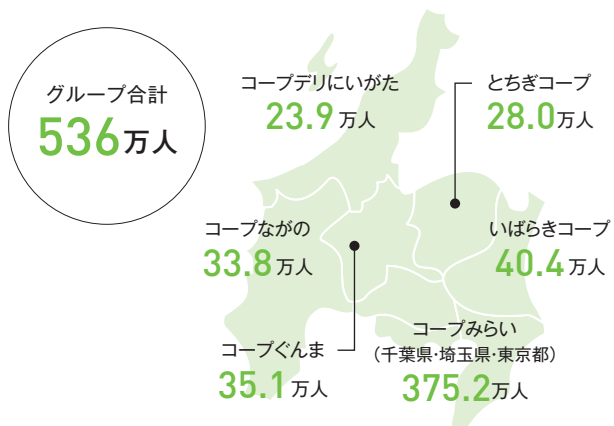


# コープデリグループについて

## ❖ コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた）とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

### ▶ コープデリグループ会員生協組合員数



## ❖ 会員生協とコープデリ連合会の関係

コープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に出資し加盟する「会員生協」として、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、536万人を超える組合員の暮らしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

## ❖ コープデリ連合会の概況

(2024年3月20日現在、事業高は2023年度)

名称	コープデリ生活協同組合連合会
設立年月日	1992年7月21日
会員数	6会員
事業エリア	1都7県(千葉県/埼玉県/東京都/茨城県/栃木県/群馬県/長野県/新潟県)
事業高	4,573億4,221万円
出資金	268億3,500万円
職員数	1,303人 (正規職員717人、パート職員586人)
本部所在地	〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
TEL	048-839-1371(代表)

## ❖ 役員体制 (法定役員の常勤役員を中心に記載しています)

(2024年6月現在)

代表理事 理事長	熊崎 伸
副理事長	永井 伸二郎
副理事長(非常勤)	登坂 康史
代表理事 専務理事	大川 昌彦
常任理事	多田 眞
	川端 浩義
	山口 真司
	飯島 幸治
常任理事 常務理事 (機関運営・組織管掌)	風間 徹
常任理事・常務理事 (機関運営・組織管掌)	河田 喜一
常務理事(宅配・EC事業本部長)	鳥羽 治明
常務理事(管理・開発管掌)	成田 章二
常勤理事(福祉事業担当)	圓尾 佐智子
常勤監事	木村 隆之

## ❖ グループ会社について

株式会社コープデリ保険センター	株式会社コープデリサービス	株式会社コープデリフーズ
協栄流通株式会社	株式会社協同開発	株式会社コープワーキングサポート
コープデリ酒類販売株式会社	株式会社トラストシップ	株式会社コープミート千葉

# コープデリグループの事業と会員生協の活動

## ❖ コープデリグループの事業

### 宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の取扱アイテムから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウイークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



### 店舗事業

“おいしさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が146店舗※、さらにネットスーパーや移動店舗といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならではの」こだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



※コープデリにいがたに店舗はありません。

※店舗数は2024年6月20日現在

### サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、生涯にわたり組合員のくらしに貢献する下記の事業を展開しています。



チケット／くらしのサービス(エアコン・ハウスクリーニング、ふとんリフォームなど)／ハウジング(新築、リフォームなど)／コープデリのお葬式コブセ(葬祭)

※生協によって取り扱いのないサービスがあります。

### 福祉事業

コープみらい、いばらきコープ、コープぐんま、コープながのの4会員生協で展開しています。ケアプランの作成、ホームヘルパーの派遣、デイサービスの実施、サービス付き高齢者向け住宅の運営などを通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。



※生協によって取り扱いのないサービスがあります。

※とちぎコープの福祉事業は、移管先である「社会福祉法人ふれあいコープ」が担っています。

### 保障事業

CO・OP共済は、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きを基本に、組合員の声による改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。



### 商品事業

コープデリ連合会は、会員生協組合員から寄せられた声と想いをかたちにしたプライベートブランド(PB)であるコープ商品を日本生活協同組合連合会と共同で開発しています。また産直を通じて、持続可能な農畜水産物の生産を応援しています。自前の商品検査センターは商品の品質を科学の目でチェックしています。



## エネルギー供給事業

組合員のくらしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープの事業所の太陽光発電施設の電気です。また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス供給事業「コープデリガス」を提供しています。

※コープながのでは「ベーシックメニュー」の取り扱いはありません。  
※コープデリにいがたにはエネルギー供給事業はありません。  
※コープデリガスは地域限定です。



## 物流・生産

物流部門は、安全、効率、品質を最重点に商品を集品・分荷し、会員生協の宅配センターや店舗に届けています。自動化システムの積極的な導入で、生産性の向上を図っています。

生産部門は徹底した安全管理、品質管理、衛生管理のもと、宅配・店舗向けの精肉商品、店舗向けの惣菜・ベーカリー商品を生産しています。グループ会社の(株)コープデリフーズの桶川生鮮センター、桶川IQFセンターは食品安全マネジメントシステム「JFS-C規格」の認証を取得しています。



## ❖ コープデリグループ会員生協の活動

コープでは、くらしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、くらしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

### 食の取り組み

安全なものを安心して食べ、健康にくらしたいという組合員の願いを実現するために、「食」に関するさまざまな取り組みを行っています。取引先を講師とした商品学習会や産地・工場の見学、生産者・メーカーとの交流会、調理など、組合員は関心を持ったテーマについて学んでいます。



### 地域社会づくりの取り組み

「誰ひとり取り残さない社会」を実現するためには、地域で人と人とのつながりをつくるのが重要です。行政や地域の諸団体と連携し、フードドライブやフードパントリー、地域の誰もが参加できる集いの場の提供、子育て中の人たちのネットワークをつくる子育てひろばなどの活動を行っています。



### 地球・未来を考える取り組み

地球温暖化や廃棄物、飢餓や貧困、紛争など、国境を越えてつながる問題の解決には、一人ひとりの行動が大切です。家庭での省エネや食品ロスの削減などを学び行動する「コープデリのエコ活」、自然の中で生物多様性などを学ぶ体験教室、平和を考える戦跡めぐり、飢餓や貧困の問題を考えその解決に参加できるハッピーミルクプロジェクトやユニセフ募金など、問題を知り、自分でできることを考え、交流する活動を行っています。



コープデリグループのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ  
Instagram



【お問い合わせ先】

## コープデリ生活協同組合連合会

サステナビリティ推進部

〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13  
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい いばらきコープ とちぎコープ コープぐんま  
コープながの コープデリにいがた コープデリ連合会

コープデリグループ／サステナビリティレポート  
読者アンケート

ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。  
来年度の制作の参考にさせていただきます。  
(2024年11月30日まで)

